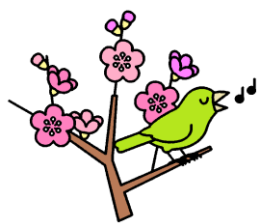


令和7年度



園だより 2月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるこころとあたま

一人ひとりが大切な存在

主任教諭 中村咲希

先日、家族でいちご狩りに出かけました。ビニールハウスの中には、色とりどりのいちごがたくさん実っていました。わくわくしながら、「おいしいいちごはどれかな〜？」とじっくり観察すると、真っ赤ないちご、まだ白っぽいいちご、大きないちご、小さないちご、きれいな形のいちご、ごつごつした形のいちご・・・どれも違った姿をしていました。“いちご”と一括りに言っても、色も形も味も、全てが違うことに改めて気が付きました。きっといちご農家さんが一株一株、一粒一粒に愛情をこめて、そのいちごに合ったお世話をしていることでしょう。

私たち、子供園の職員もいちご農家さんがそうするように、“子供園の子どもたち”と一括りにせず、園児一人ひとりの個性の理解に努め、本人の思いを受け止め、大切な存在として日々関わっています。子どもは、自分が大切にされていると実感できると、自分自身を大切にし、“自分は自分のままで大丈夫”と自信をもって大きく育っていきます。

また他者（友達）も自分と同じように大切にされる存在であると気付くことで、「人と違っていいのだ」と気付いていきます。この気付きが自分と違う思いや考えを受け入れ合うことにつながっていきます。

走ることが好き、絵をかくことが楽しい、優しい、粘り強いなどの一人ひとりありのままの良さはもちろん、苦手なことや課題、成長を期待する面もすべて受け止め、一人ひとりが大切にかけがえのない存在であることを、ご家庭と子供園とで一緒に伝え続けていきたいと感じます。

